

(四国地方整備局からのメッセージ)

◆◆◆四国地方整備局トピック 2017. 2. 10◆◆◆

【四国地方整備局 河川部長 西井 洋史】

四国地方は、災害に対して厳しい自然条件のため水害や土砂災害の危険性が高い地域であり、これまで地域の方々の協力をいただきながら治水施設等を計画的に整備してきたところです。

このようなことから、地域の安全性は着実に向上してきており、ここでは、今年度の治水・利水に関する施設の効果事例について紹介します。

平成28年9月の台風第16号では、中筋川山奈雨量観測所において降り始めからの総雨量が466mm(9月20日の日雨量は観測開始以降最大となる352mm)となり、四万十川支川中筋川の基準地点である磯ノ川水位観測所では戦後第2位の水位に達しました。上流の中筋川ダムにおいては、ダムへの最大流入量が平成11年にダム運用を開始して以降、最大となる約351m³/sに達しましたが、そのうち約84%を貯留し、放流量を約56m³/sに低減したことで、水位を約1.25m低減させ、堤防の安全を確保できる計画高水位を超過したものの、川が溢れることによる堤防決壊を回避し、下流の被害を軽減しました。

ダムが無かった場合、堤防を約0.5m越水し大規模な被害がでたと想定されます。なお、建設中の横瀬川ダムが完成すれば、今回の洪水では、さらに約60cm水位を低下し計画高水位以下に下げることができるので、いっそう地域の安全が確保されます。

また、昨年の夏は吉野川(池田地点上流)における月別累計降雨量は、7月が約132mm(平年比35.3%)、8月が約154mm(平年比38.8%)と少なかったため、池田地点の自然流量は少ない状況でした。例えば8月14日の池田地点の自然流量は19m³/s程度となり、河川として必要な維持流量(13m³/s)を除き、各県へ供給する為に必要な流量のうち約86%を早明浦ダムから補給しました。全体では約126百万m³の水を補給し、この量は25mプール約32万個分にあたります。このような早明浦ダムの効果により、地域の住民生活や社会活動等に大きな支障は生じませんでした。

このようにこれまでの施設が着実に効果を発揮しています。しかしながら、近年は雨の降り方が、局地、激甚化してきており、災害のリスクが高まっています。

一昨年9月の関東・東北豪雨災害では、鬼怒川の堤防が決壊し、人的被害や氾濫流による家屋倒壊、広範囲にわたる長期浸水により甚大な被害が発生しました。また避難の遅れもあり、多くの方が孤立し救助されました。

昨年も梅雨前線や相次ぐ台風の上陸に伴い、全国各地に被害をもたらし、特に、8月に相次いで発生した台風は、7号、11号、9号の三つが北海道に上陸、また台風10号は東北地方の太平洋側へ上陸しました。台風が北海道や東北に直接上陸するの

は気象庁の統計開始以来はじめてのことであり、これらの地域では甚大な被害が発生しました。

こうした災害に対応するため、今後とも計画的に治水事業等を進める必要があります。

四国地方は、南海トラフ巨大地震の発生も懸念されています。施設の耐震化、津波対策さらに深層崩壊対策なども急がれます。

地域の安全・安心を確保するとともに、産業や観光などで地域を活性化させるために県、市町村等と連携しハードとソフトの対策をしっかりと進めたいと思います。

■平成28年度 四国防災トップセミナーを開催しました

【企画部 防災課】

大規模災害に向けて今備えるべきこと
～“必ず来る”今だからこそ出来ること～

- 日 時：平成29年1月17日（火）14：30～17：15
- 場 所：四国地方整備局 災害対策室
- 出席者：四国内の市町村長92名（内、代理25名）
四国南海トラフ地震対策戦略会議メンバー等 参加者約320名
- 主 催：国土交通省 四国地方整備局

■開催概要

四国防災トップセミナーは、四国内の市町村長と四国南海トラフ地震対策戦略会議メンバーが一堂に会し、防災に関する講演の聴講や意見交換を通じて見識を深め、地域防災力の向上を目指すことを目的として、平成12年度より開催しています。

今年度で17回目となる四国防災トップセミナーは、防災、減災をテーマに地震予知研究の第一人者である、東京大学地震研究所の地震予知研究センター長・教授 平田直（ひらた なおし）氏、また、東日本大震災による甚大な被害を受け、現在「復興まちづくり計画」を策定し、災害に強く安全なまちを目指し取り組みを進めている宮城県の東松島市長 阿部 秀保（あべ ひでお）氏に基調講演をいただき、意見交換を行いました。

また、情報提供として、「津波防災地域づくりについて」（国土交通省総合政策局）、
「四国地方整備局からの情報提供」（四国地方整備局）も行いました。

■第一部 基調講演

『東日本大震災と熊本地震災害を教訓とした南海トラフ巨大地震への備え』
東京大学 地震研究所 地震予知研究センター長・教授 平田 直 氏

【講演要旨】

- 東日本大震災はまだ終わっていない
- 過去の震災の最大被害を津波、家屋倒壊、火災に類型化でき、その地域の被害予測が可能
- 一般の方に理解できるように、地震発生確率の算定方法を見直した
- 南海トラフ巨大地震は、30年以内に60～70%の確率で発生し、最大30万人の犠牲者
- 災害を軽減するには、建物等の耐震化、津波の早期避難、地域防災力強化のために防災教育を推進

■第二部 基調講演

『あの日を忘れず ともに未来へ』～東松島一心～』

宮城県 東松島市長 阿部 秀保 氏

【講演要旨】

- 復興に大事なことは、財源、制度設計、マンパワーの確保
- 専門家の力を借りる等、住民に丁寧な説明を行い、合意形成を経て復興を進めることが重要
- 過去の震災から学んだことを活かすこと
- 災害時のリーダーの決断と責任

■新春を駆ける「第18回国営讃岐まんのう公園リレーマラソン」を開催しました

【香川河川国道事務所 公園課】

国営讃岐まんのう公園では、新春の公園を駆け巡る『第18回国営讃岐まんのう公園リレーマラソン』を平成29年1月8日（日）と9日（月・祝）の2日間開催しました。今年は2日間とも雨が降り天候には恵まれませんでした。多くの方にご参加いただきました。リレーマラソンは、1チーム4人以上10人以内で、1周約2kmのコースを計21周し、42.195kmをタスキリレーしてチームで完走を目指します。18回目となる今年は、2日間で合計394チーム3,186人が参加し、8日（日）は、一般部門、職場仲間部門、ファミリー部門が、9日（月・祝）は、一般部門、女子部門、男女混合部門、小学生部門、中学生部門、マスターズ部門で、2日間合わせて8つの部門にわたり、思い思いの衣装を身に纏ったランナーたちが、新春の国営讃岐まんのう公園を駆け抜けました。

また、4月16日（日）には国営讃岐まんのう公園において「しこく88kmリレーマラソン2017」を開催いたします。1周1,313mを約67周する88km部門をはじめ42.195km部門、21km部門の3部門で順位を競います。88km部門は1チーム20人以内、42.195km部門及び21km部門は10人以内でチームを編成し、春の心地よい風を感じながら景色を楽しむ大会です。ただ今、参加募集中で申込締切は、平成29年3月30日（木）までとなっております。ぜひご参加ください。

※季節の花情報や旬のイベント情報については、国営讃岐まんのう公園ホームページでご確認ください。（<http://sanukimannoupark.jp/>）

■広域海上輸送のための航路啓開机上訓練を実施しました

【港湾空港部 港湾空港防災・危機管理課】

四国地方整備局は、平成29年1月12日（木）に、大規模地震・津波災害時に複数の港湾・航路が広域的に被災した状況を想定し、被災直後から航路啓開完了までの対応について、海上保安庁、港湾関係団体と協力し迅速かつ円滑に行うことが出来るようD I

G形式の訓練を行いました。

訓練では、四国地方整備局（高松市）と松山港湾・空港整備事務所の2箇所の会場において、北九州・広島からの緊急物資をそれぞれ高松港・松山港が受け入れる想定で行い、受け入れ拠点として円滑に機能するため港湾機能回復を目指した航路啓開実施方針に対するさまざまな状況が付与されました。参加者からは現状や問題点等が出され課題や対応策が議論されました。

大規模災害発生時の航路啓開に関しては、「南海トラフ地震に対応した四国の広域的な海上輸送の継続計画」に基づき行動することとしており、本継続計画の実効性の向上を図るため、同訓練で出された課題を踏まえ継続計画への反映を行います。

※DIG訓練とは、実動訓練と違い、与えられた被害状況を参加プレイヤーで討議しながら最善策を導きだしていくロールプレイング型の訓練です。Disaster（災害）Imagination（想像力）Game（ゲーム）の略

■高知新港と須崎港における最近の取組について

【高知港湾・空港整備事務所】

高知新港では、昨年、世界最大級のクルーズ客船「クァンタム・オブ・ザ・シーズ」をはじめ外航クルーズ客船の寄港数が19隻と一昨年の6倍以上に急増しました。クルーズ客船が寄港した日には、高知市内外に多くのバスが出ますし、高知市内でも外国人を多数見かけるなど地元の賑わいに貢献している様子がうかがえます。また、昨年10月には、高知新港と神戸港とを結ぶ国際フィーダー航路が就航し、これまでの韓国航路、韓国・中国航路に続く3航路目となる国際コンテナ航路が開設されるなど、物流面においても良い話題で盛り上がりました。

当事務所の事業に目を向けると、高知新港では、新年早々、防波堤（東第一）のケーソン据え付け工事が行われました。今回据え付けられたケーソンは高さ13.5m、重量2,200~3,000トンもあるため、陸上で製作した後、日本に4隻しかない3,000トン以上の構造物を吊り上げられる大型クレーン船「第50吉田号」により所定の位置に据え付けられました。今年度は4函（かん）のケーソンを据え付け、防波堤を約90m延伸しました。防波堤（東第一）はあと約70m延伸する計画であり、今後も港内の静穏性を確保し、船舶の航行や荷役時の安全性を向上させるため、防波堤の整備を進めていきます。

一方、高知新港の防波堤は、今年度事業化された高知港海岸直轄海岸整備事業における「三重防護」の第一ラインを担う重要な施設でもあります。三重防護とは、1. 沖合の防波堤（第一ライン）、2. 湾口部の津波防波堤・外縁部堤防（第二ライン）、3. 湾内の護岸や防潮堤等（第三ライン）の三段階で津波から陸域を守る津波対策の思想です。高知港海岸が位置する高知市は、高知県全体の約45%の人口が集中しており、特に高知港海岸の背後には行政機関や学校、病院などの公的機関が多数存在しています。南海トラフを震源とする地震・津波の被害が予想されるここ高知県では、住民の防災意識も高く、昨年5月に行われた新規事業着手式の式辞では、尾崎高知県知事から本事業について「本県の悲願であり、歴史的事業」とのお言葉をいただきました。現在は、早期の現地着工に向けて土質調査や断面設計を行っております。

他方、当事務所では、ご当地キャラとタイアップした広報活動も行っております。高知県西部の須崎市には二ホンカワウソと須崎名物「鍋焼きラーメン」をモチーフとした「しんじょう君」というご当地キャラがいます。このしんじょう君は2016年のゆ

いきいき四国通信Vol.84（配信版）.txt

るキャラグランプリで優勝するなど地元須崎市のみならず全国的に大人気のご当地キャラです。昨年10月には、須崎港PRに一役買ってもらおうとしんじょう君と楠瀬須崎市長を須崎港にお招きし、見学会を開催しました。その甲斐もあって、この見学会は地元テレビ局に取り上げてもらい、多くの市民の目に触れることになりました。

※ケーソンとは、防波堤などの水中構造物として使用、あるいは地下構造物を構築する際に用いられるコンクリート製又は鋼製の大型の箱のことです。

四国地方整備局HP

<http://www.skr.mlit.go.jp/>

「いきいき四国通信」に関するご意見、配信中止・配信先変更のご希望等がありましたら、下記メールアドレスまでお寄せ下さい。

国土交通省 四国地方整備局 企画部 「いきいき四国通信」事務局

<mailto:skr-seibikyoku@mlit.go.jp>

=====

国土交通省 四国地方整備局
企画部 企画課 参加連携係長

篠崎 昌基（しのざき まさき）

四国地方整備局は、3つのテーマで広報します。

【平成28年度重点テーマ】

- ①職員が活躍する『姿が伝わる』広報
- ②社会資本整備の『魅力が伝わる』広報
- ③好事例を共有し『分かりやすく伝わる』広報

〒760-8554

香川県高松市サンポート3番33号

TEL 087-811-8308（内線：3176）

FAX 087-811-8408

Mail shinozaki-m8815@mlit.go.jp

=====